中学校技術科における道具の仕組みを踏まえた合理的な使い方を重視した技能指導に関する実践的研究

教育実践高度化専攻　教科指導重点コース　造形・創造科学系（技術）
佐藤　豊大

中学校技術家庭科における技術分野において、道具を使う技能を育成する教育的意義は大きい。技能を豊かに育むことによって目的の寸法形状通りの加工が行えるようなる。また、他者の技能を分析的に見ることができるようになり、他者の技能を正当に評価する力も育まれることが期待される。このことは、世の中で行われているものづくりを正当に評価する力が豊かになることにつながる。中学校段階において道具を使う技能とは、道具の仕組みを踏まえた合理的な使い方ができることを言う。技能を豊かに育てるには一定の順次制に従うことが妥当である。第１に合理的な使い方の裏付けとなる道具の仕組み理解。第２に仕組みを踏まえた合理的な道具の使い方。第３に道具を使う十分な練習である。本実践では前述の理論を基に木材加工における代表的な５つの技能指導を行い一定の成果を得た。さしがねにを使ったけがき、のこぎり引き、かんながけ、やすりがけ、げんのうを使った釘打ちである。